

領域	三カ年経営目標	本年度経営目標	目標達成のための方策	取組指標（教職員の取組）			取組自己評価			成果指標（児童・生徒等の変容・成果）			成果自己評価			分析・改善策
				当初			当初			当初			当初			
				目標	達成	評価	目標	達成	評価	目標	達成	評価	目標	達成	評価	
学校経営	「チーム学校」の確立	安全で安心な学校づくり	・学校危機に対して未然防止・早期対応、組織的対応の徹底を図る。 ・関係、組織的対応の徹底を図る。	・安全教育の充実・改善 ・保護者への迅速で適切な連絡 ・関係諸機関との迅速な情報共有及び連携 ・特別支援コーディネーターを核とした特別支援教育校内委員会の充実・改善	70 80 90	70 80 90	A	・学校評価アンケートの結果 ・児童の学校生活や登下校の状況	70 80 90	70 80 90	B	・避難訓練は、実際の災害を想定し、段階的に難易度も上げて実施をする。でき、児童の避難行動も良好だった。登下校時の歩道の歩き方には課題がある。保護者連絡は迅速に丁寧に行っており、保護者からも好評を得ている。 ・特別支援教育校内委員会を核として、子ども家庭センタや市民生活委員等、関係機関とも積極的な情報共有を行い、連携をとりながら、一人一人の児童への丁寧な支援を行うことができた。教育相談室との連携強化を更に図っていく。	70 80 90	70 80 90	B	避難訓練は、実際の災害を想定し、段階的に難易度も上げて実施をする。でき、児童の避難行動も良好だった。登下校時の歩道の歩き方には課題がある。保護者連絡は迅速に丁寧に行っており、保護者からも好評を得ている。 ・特別支援教育校内委員会を核として、子ども家庭センタや市民生活委員等、関係機関とも積極的な情報共有を行い、連携をとりながら、一人一人の児童への丁寧な支援を行うことができた。教育相談室との連携強化を更に図っていく。
		関係機関とチームとしての連携	・教育諸課題に対し、専門機関との連携を強化し、チーム学校としての連携を構築する。 ・円滑な学校運営に向けて、主幹教職員が核となり、各分掌が協働して教育活動を推進する。	・学校経営方針に沿った全教職員の参画による学校運営 ・主幹教諭を核とした組織的な学校運営	70 80 90	70 80 90	B	・学校評価アンケートの結果 ・配属を要する児童への対応の状況 ・特別支援教育の推進の状況	70 80 90	70 80 90	B	・学校経営方針に沿った教育活動となるよう意図的に協議において十分に検討した上で、各分掌で組織的に学校運営を行うことができた。今後は各分掌の教職員にも経験を経ませ、より主体的に分掌の職務を遂行できるようにしていく。	70 80 90	70 80 90	A	
学力向上	確かな学力の定着	「個別最適な学び」「協働的な学び」の実現	・児童の興味関心を惹く課題設定を行い、主体的な学びにつなげる指導の工夫を行う。	・一人1台端末の効果的な活用 ・意図的、計画的な学習指導	70 80 90	70 80 90	B	・学校評価アンケートの結果 ・各種学力調査の結果	70 80 90	70 80 90	C	・学習用IPadの利用は必要に増え、特に調べ学習、学習のまとめ、意見交流等で積極的な活用が見られた。学力向上に向けて、知識・技能の確実の習得をより重視した指導の工夫及びICT機器の効果的な活用を検討していく。	70 80 90	70 80 90	C	学習用IPadの利用は必要に増え、特に調べ学習、学習のまとめ、意見交流等で積極的な活用が見られた。学力向上に向けて、知識・技能の確実の習得をより重視した指導の工夫及びICT機器の効果的な活用を検討していく。
		学習習慣の確立	・「ふっさっさ子スタンダード」の周知徹底を行い、児童により良い学習習慣についての意識化を図る。	・校内研究の充実・改善 ・教員間の授業参観（ミニ研）の実施 ・10回のOJTの実施	70 80 90	70 80 90	B	・学校評価アンケートの結果 ・「ふっさっさ子スタンダード」の定着の状況	70 80 90	70 80 90	B	・校閲会の講話や年5回の振り返りアンケート、毎日の朝礼等で意識化が図れている。姿勢と丁寧な取組において課題が残る。読書習慣の定着は、年度当初より若干改善してきている。	70 80 90	70 80 90	B	
健全育成	健康な心と体の育成	思いやりの心の醸成	・道徳科の指導を核とした全教育活動を通して児童に「思いやり」の心を育む。	・たわわり活動による異学年交流の充実・改善 ・いじめ防止の取組の充実・改善 ・人権教育の推進	70 80 90	70 80 90	A	・学校評価アンケートの結果 ・児童の学校生活の状況	70 80 90	70 80 90	B	・様々な教育活動における、たわわり等の活用や異学年交流の充実等、他者思いやりの育成を図ることができた。また、全学年において、「子ども」の権利契約」を題材とした人権教育を実施することができた。	70 80 90	70 80 90	B	様々な教育活動における、たわわり等の活用や異学年交流の充実等、他者思いやりの育成を図ることができた。また、全学年において、「子ども」の権利契約」を題材とした人権教育を実施することができた。
		規律ある生活習慣の確立	・生活目標及び「きりつと生活」の周知徹底を行い、児童により良い生活習慣の意識化を図る。	・生活目標の月2回の振り返りの実施 ・挨拶運動の推進 ・家庭との連携	70 80 90	70 80 90	B	・学校評価アンケートの結果 ・児童の学校生活の状況	70 80 90	70 80 90	B	・計画代表委員会を中心に「挨拶運動」を随時実施し、多くの児童が参加する等、全体的には挨拶への意識は高まっている。一方、よくできている児童とできない児童の二極化が目立つ。児童の持ち物への指導を徹底していく。	70 80 90	70 80 90	B	
特色ある学校づくり	地域協働の学校	適切な運動による心身の活性化	・全校一斉での体育的取組と保健指導の充実を通して自分の体力や健康への関心を高める。	・細路び週間、持走走旬間の実施 ・休み時間の外遊びの励行 ・歯磨きの取組の実施	70 80 90	70 80 90	B	・学校評価アンケートの結果 ・児童の学校生活の状況	70 80 90	70 80 90	B	・給食後の歯磨きは、丁寧な指導を行ったことで無事にスタートでき、定着も図れた。「歯磨き週間」「持走走旬間」では、記録カードを活用し、自分の目標を意識して体力向上に努めていた。食育の推進を図っていく。	70 80 90	70 80 90	B	給食後の歯磨きは、丁寧な指導を行ったことで無事にスタートでき、定着も図れた。「歯磨き週間」「持走走旬間」では、記録カードを活用し、自分の目標を意識して体力向上に努めていた。食育の推進を図っていく。
		創立150周年事業の充実	・創立150周年事業を通して、学校や地域への愛着を深める。	・創立150周年式典及びお祝い集会の実施 ・創立150周年の意識を高める校内環境の整備	70 80 90	70 80 90	A	・学校評価アンケートの結果 ・周年事業の実施の状況	70 80 90	70 80 90	A	・様々な周年事業の実施に向けて、地域の方と代表教職員による実行委員会において十分に検討を重ねながら進められた。式典は200名を超す来賓を迎え、盛大に実施でき、第6学年による呼びかけや歌も大いに貢献された。	70 80 90	70 80 90	A	
特色ある学校づくり	地域協働の学校	地域理解と協働	・CS委員会や学校支援コーディネーター等との連携による地域学習の充実・改善 ・P T A活動への協力と児童育成に向けた連携	・学校支援コーディネーターとの連携による地域学習の充実・改善 ・P T A活動への協力と児童育成に向けた連携	70 80 90	70 80 90	A	・学校評価アンケートの結果 ・地域学習や地域の教育資源の活用状況 ・各種広報誌の発行の状況	70 80 90	70 80 90	A	・学校支援コーディネーターと連携し、全学年で地域協働の学習を実施してきた。今年度は、新たに第1・第2学年で普通遊、第3学年で伝統文化体験をゲストティーチャーを招いて実施することができ、充実した学習となった。	70 80 90	70 80 90	A	学校支援コーディネーターと連携し、全学年で地域協働の学習を実施してきた。今年度は、新たに第1・第2学年で普通遊、第3学年で伝統文化体験をゲストティーチャーを招いて実施することができ、充実した学習となった。
		幼児小中連携	・幼児小及び小中で円滑な接続に向けた連携の充実を図る。	・福生一中校区における三校交流集会の充実・改善 ・幼児小連携の取組の充実・改善	70 80 90	70 80 90	B	・学校評価アンケートの結果 ・連携事業の実施の状況	70 80 90	70 80 90	B	・幼児小連携では、第1・5学年において交流活動を行い、児童には相手意識をもった主体的な計画・運営、園児には進学の期待が膨らむ活動となった。小中連携では、目指す子ども像の共有化を図り、真実的に連携を進めた。	70 80 90	70 80 90	B	